

三村申吾知事(右から3人目)にモナリザ賞の受賞を報告した関係者



八学大女子ラグビー部

世界健康フォーラムでモナリザ賞

大豆食品の効果探る

京都府 NPO法人世界健康フォーラム研究会が、昨年11月に京都市で開催した第39回「世界健康フォーラム2018・京都」で、モナリザ賞を受賞した八戸学院大女子ラグビー部の関係者が11日、青森県庁に三村申吾知事を訪ね、取り組みを報告した。(稲村安莉)

同部は2017年度、部員は植物性タンパク質が豊富な納豆や豆腐、豆乳を毎日摂取。大豆食品の提供を受け、女性アスリートが抱えている運動性無月経や、骨粗しょう症などの予防効果を研究している。

知事に取り組み報告

同日は、工藤社長、同部の吉田稔部長、工藤祐太郎監督、栗谷川フロードコーチ、田端ひかる副主将の5人が訪れた。

「大豆でラグビーも強くなつて、ますます元気になることに期待する」とエールを送った。取材に対し、田端副主将は「納豆に刻んだたくあんを混ぜて食べるのが好き。トレーニング後の回復が早く、毎日食べないと落ち着かなくなる」と話

問。吉田部長は「大豆食品の協力がなくとも、きない研究。大豆食品の効果が出るのが楽しみ」と来年の成果発表を見据えた。「植物性タンパク質がアスリートにいい、というイメージを日本全体に広げられたら」と栗谷川フロードコーチ。三村知事は「大豆でラグビーも強くなつて、ますます元気になることに期待する」とエールを送った。